



来院理由として多くみられるペインクリニック領域の症状の『顔の痛み』についてお話しします。

『顔の痛み』には、三叉神経痛の他に、下記のようなものがあります。

① 顔面神経麻痺は、顔の表面の筋肉(表情筋)をコントロールする顔面神経が麻痺して、顔の筋肉が動かせなくなる疾患です。片目だけ閉鎖できなかつたり、口を片方のみすぼめることができなくなるなど、主に左右どちらか片側だけに起こる疾患です。顔面神経が何らかの炎症や病変により麻痺を起こします。水痘帯状疱疹ウイルスによる顔面神経麻痺をハント症候群といい、繰り返す原因不明の顔面神経麻痺をベル麻痺といいます。

② 顔面けいれんも、主に左右どちらか片側だけに起こり、片側の眼や口の周囲の筋肉がピクピクとけいれんする病気です。典型的には瞼の下のみくつきから始まり、数年の経過で、徐々に顔の片側全体に広がる事が多く、ひどくなると眼が開けられなくなったり、長期間放っておくと筋肉が萎縮してしまうこともあります。原因は、顔面神経が血管によって圧迫されることにより起こります。女性に多く、50歳前後より認められ、症状の寛解(一時的によくなること)はあるが進行性の病気です。

③ 顎関節症は、顎関節とその周辺の筋肉の異常や疼痛、関節雑音、顎の運動障害が主な症状です。原因としては、不正な咬み合わせや咀嚼(そしゃく)筋肉の緊張など顎関節の異常、外傷による下顎頭の変位や関節リウマチによる変形、ストレスなどによる精神的な要因があげられます。

その他、眼科疾患や耳鼻科疾患、頭蓋内疾患、口内疼痛などによる顔の痛みもありますので、必ず医師の診断を早期に受けましょう。

### 《顔の痛みの治療法》

#### ① 薬物療法

顔面神経麻痺には血管を拡張する血管拡張剤や副腎皮質ステロイドの代謝を促進する薬、顔面けいれんには精神的な緊張をほぐす精神安定剤、顎関節症には非ステロイド性抗炎症薬・中枢性筋弛緩薬・抗不安薬・抗うつ薬など。

#### ② 神経ブロック療法

痛みの引き金となる部位にトリガーポイント注射、顎関節内注射、星状神経節に局所麻酔薬を注射する星状神経節ブロックにより痛みの伝達を抑え、痛みを和らげる。

#### ③ 理学療法

圧痛点・経穴にレーザー照射、SSP(針治療と同様効果)等。

#### ④ 徒手療法

関節矯正の AKA 療法、生体の流れを正常にする遠絡療法、副交感神経を刺激する無血刺絡(シラク)等の東洋医学も効果的。



ご希望・お問い合わせの方は、医師・スタッフまでお申し付け下さい。 ~かわたペインクリニック~

**痛み**の診療所 ペインクリニック

なぜ痛いのかわからない、原因はわかっているが痛みで困っている。そんな方は、痛みを治療する専門の診療所ペインクリニックへご相談ください。

**かわたペインクリニック**  
 ペインクリニック(痛みの治療)・内科・リハビリテーション科  
 〒631-0036 奈良市学園北1-9-1 パラディII5F  
 TEL.0742-53-1155 FAX.0742-53-1001  
<http://www.kawata-cl.jp>





当院における来院理由となる症状の**第9位**となった『**三叉神経痛**』についてお話ししたいと思います。

『**三叉神経痛**』とは、顔の感覚を脳に伝え、ものを噛むときに使う筋肉をコントロールしている**三叉神経**(脳幹から**眼神経・上顎神経・下顎神経**につながる**三つの枝**から出来ている**第五脳神経**)の機能不全により痛みが生じる病気です。

三叉神経痛には次の二種類があります。

- ① **特発性神経痛**は動脈硬化などで屈曲した脳深部の動脈や静脈などの血管が**三叉神経**を圧迫することによって痛みが生じると言われています。
- ② **続発性神経痛**は他の病気(帯状疱疹や中耳炎、蓄膿症、虫歯等)が原因で起こる神経痛で、これらの病原菌が炎症を起こし、神経が刺激されて、痛みが生じます。

### 《三叉神経痛の症状》

症状としては、突然顔面に激しい痛みが襲います。それは針で刺されたような、或いは電気が走るような痛みで鼻から耳にかけての部分や口から顎にかけての部分に現れます。顔に触る、口を動かす、風が当たるなどで誘発される痛みは数秒間～数分間続き、その後しばらくしてから又再発します。

そのような症状が数日から数ヶ月続きます。激しい痛みのため、食事が十分とれず、またしゃべることもままならないため、精神的にも肉体的にも憔悴してしまう病気とされています。年間の発症率は10万人に約4人で、男性よりやや女性に多く、中年以降に発症し、11月や2月に痛みがひどくなる方が多い。痛みを我慢したり、年だからとあきらめず、適切な治療を受けるよう心がけましょう。

### 《三叉神経痛の治療法》

- ① **薬物療法**  
神経膜を安定させる作用がある抗てんかん薬である**テグレトール**は、神経の伝達を抑える薬で**三叉神経痛の特効薬**とされます。その他、鎮痛剤や精神安定剤、ビタミン剤、漢方薬、帯状疱疹が原因の場合は抗ウイルス剤を処方。
- ② **神経ブロック療法**  
痛みがある神経や神経節に局所麻酔薬を注射することにより、痛みの伝達を抑えて、痛みを和らげます。特に、**三叉神経ブロック**は感覚刺激の入力を遮断し、疼痛を起こしている**小脳橋角部**に操作を加えることなく痛みを鎮める効果がある。
- ③ **理学療法**  
圧痛点・経穴・星状神経節にレーザー照射や SSP (針治療と同様効果)、高周波ブロックなど。

### ④徒手療法

生体の流れを正常にする遠絡療法などの東洋医学も効果的。



ご希望・お問い合わせの方は、医師・スタッフまでお申し付け下さい。

～かわたペインクリニック～

**痛みの診療所** ペインクリニック

なぜ痛いのかわからない、原因はわかっているが痛みで困っている。そんな方は、痛みを治療する専門の診療所ペインクリニックへご相談ください。

**かわたペインクリニック**  
ペインクリニック(痛みの治療)・内科・リハビリテーション科  
〒631-0036 奈良市学園北1-9-1 パラディII5F  
TEL.0742-53-1155 FAX.0742-53-1001  
<http://www.kawata-cl.jp>

